

海外に触れる機会や場を増やし 三重県からグローバルな人材の発信を

常にアグレッシブに業務を行う鈴木英敬三重県知事。二〇一六年のサミット開催の勢いそのままに、一七年は「お伊勢さん菓子博」(全国菓子大博覧会)を成功させた。一八年の「インターハイ」開催、二一年の「三重とこわか国体」「三重とこわか大会」の準備にも忙しい中、話を聞いた。

——お伊勢さん菓子博(以下、菓子博)の成功、おめでとうございます。菓子博の評判、レガシーとなったのはどんなことでしょうか。

鈴木 会場へのアクセス面では、前回、前々回の広島や姫路のように交通至便な場所ではなかったのが心配の声もあったのですが、おかげさまで目標としていた来場者六〇万人をほぼ達成できました。

交付数が全国の中でも多く、お菓子に関連する人材育成がすすんでいる県でもあります。三重県にはおやつカンパニーや井村屋など大手菓子メーカーもあり、人口一〇万人あたりのお菓子の出荷額は全国一位です。菓子博では「お菓子処三重」をうまくお示しすることができたのではないかと思います。

また三重の若手菓子職人の青年部の人たちの努力は素晴らしいです。関係者に頭を下げ、汗をかき、寝る間を惜しんで頑張っていたいただきました。幅約一〇m、奥行約五・五mの巨大工芸菓子「伊勢参宮宮川の渡し」は、和菓子と洋菓子メンバーが連携した作品で

大評判でした。作品制作を通して和菓子と洋菓子職人のネットワーク化もできたと思います。前回の広島の菓子博ではご当地生産品のレモンを使った商品が目ざされましたので、三重では、特産の柑橘類・伊勢茶・あおさを使ったお菓子が開発されました。これも好評で、菓子博終了後も販売されている商品もあります。

菓子博開催期間中のゴールデンウィークは、前年からの菓子博のPR効果もあり、伊勢志摩エリアの観光客は対前年比二九・一%の増加でした。

また、これまでの菓子博はバリアフリーの配慮の面で指摘を受け

てきました。もともと三重県はバリアフリー観光にも力を入れてきましたので、バリアフリー観光情報を発信するNPO法人「伊勢志摩バリアフリーツアーセンター」を核に、会場に「おもいやりセンター」を設置し、あらゆるバリアフリー対策をしました。期間中、障がい者の視察団が来られました。バリアフリー対策について、極めて高い評価をいただきました。今後のインターハイや国体、全国障害者スポーツ大会にもこの

ノウハウを生かしていこうと考えています。

菓子博の前売券がなかなか売れずに苦労しましたが、マスクミ各社も積極的に取り上げていただき、結果大成功でした。「お菓子処三重」、「お菓子人材の聖地」と認知されたと思います。

——二〇一八年は、インターハイ、その三年後には国体・全国障害者スポーツ大会が開催されます。

鈴木 東京オリンピックパラリ

ンピック(以下・東京オリパラ)を挟んでの開催となります。「平成最後のインターハイ」となりまですので、歴史の節目となり責任重大です。気をひき締めてやっつけようと思います。

県内六八の高校では、それぞれ「高校生活動推進委員会」をつくりインターハイのPRや盛り上げる活動を行っています。ここまでの多くの学校がしっかり組織化され準備をするのはあまりないと思います。先日は三〇〇日前イベントが開催されたところです。県内の工業高校も、生徒がカウンタダウンボードを作るなど、それぞれが盛り上げようとしています。

またインターハイ出場メンバーが、三重とこわか国体の成年種別の重要選手になってきます。加えて、少年種別の選手となる中学生らの育成にも、努めており着実に成果も出ています。

来年は日本で初めてのボッチャの国際大会「アジア・オセアニア地区オープン大会」も開催されます。また国体とともに開催される三重とこわか大会ではボッチャが

初の正式競技にもなります。リオパラリンピックでは、日本代表が銀メダルを獲得しましたし、その事前合宿も三重で行いました。その流れの中での今回の国際大会でもあります。世界水準のゲームが行われるこの大会を機に、ボッチャの裾野がひろがっていくと思っています。

先般、国際競技委員会の皆さんが視察に来られ、競技環境や交通面では極めて高い評価をいただいているのですが、一部ホテルなどでバリアフリーが進んでいない所を急ピッチで対応策を検討していきます。

来年の中学総体は東海ブロック全体で開催し、全一四競技のうち、三重ではバスケット・サッカー・体操・陸上四競技を受けます。蓄積したノウハウを生かして円滑な準備をしていきたいと思っています。

二一年の三重とこわか国体は、デモンストレーションスポーツを含めて六〇以上の競技が開催されます。私がかかわったのは「オーラル三重」で臨むこと。二九の市町すべてで、一種目は競技が行われ

